

ブラジル文化 国交樹立130年 に触れよう

27日まで文化芸大でイベント



サンバの演奏と踊りで会場を盛り上げる愛好家たち＝静岡文化芸術大で

日本とブラジルの国交樹立130周年を記念して、ブラジル文化に触れる催し「SUA Cブラジルウィーク」が、静岡文化芸術大（浜松市中央区中央）で開かれている。27日まで日替わりで映画上映や料理の販売、講演会があり、誰でも参加できる。初日の23日はホールでサンバの演奏があり、会場を盛り上げた。（高島碧）

踊りや料理販売、映画など多彩

サンバは、市内の愛好家9人が打楽器を鳴らし、背中に大振りの羽を付けたダンサーが華やかに踊り、集まった職員や学生が手拍子を送った。23日に講演した在浜松ブラジル総領事館のアロンソ・ラファエル領事は「浜松は『日本の中のブラジル』であり、1万人近いブラジル人が住んでいる。節目の年に、豊富なプログラムでブラジルの文化を楽しんでほしい」と話した。

25、27両日午前10時からはキッチンカーでブラジルの飲食を販売。26日午後4時20分から、ブラジルのカーニバルに使われる大型トラックの歴史を追うドキュメンタリー映画「シャメ ジェンチ」を上映する。

サンパウロ大学での留学体験を25日午後0時15分から報告する4年北島末悠さん(21)は「子どものころは身近にブラジルの人がいても関心が薄かった。でも、留学でブラジル人の温かい気持ちに触れて第二の故郷になった。誰にでも縁はつくることができる」と話した。